

科目名(副題)	開講年次(セメスター)	単位	担当者名
スポーツ文化・マネジメント学実践法	1・2年次春学期 (1・3セメスター)	2	舟橋/芦塚
科目ナンバリング			
-			
授業概要・目的			
本講義は、スポーツマネジメント分野の第一線で活躍する実務家によるオムニバス形式で実施される。最新のスポーツビジネスおよびスポーツ政策に関するトピックスを概観することで、社会的意義の高い研究テーマを発見することを目指す。さらに、大学院における「リスクリング」の機会を提供し、研究成果を実践に活かすための視点を養成することを目的とする。			
学修到達目標			
・ スポーツマネジメント分野における最新のトレンドと課題を説明できる。 ・ 社会的意義の高い研究テーマを発見し、その重要性を論理的に説明できる。 ・ 研究成果を実務に応用するための具体的な方策を考案し、提示することができる。 ・ スポーツ科学全般にわたる広く深い学識を有し、体育・スポーツ・健康などに関連してわれわれが直面する諸問題に学術的側面から多角的視点で取り組み、社会的な要請に応えるために自ら考え、表現できる。 ・ スポーツ科学を専門とする自立した研究者としての学識を有し、博士後期課程に進学して独創的な研究を行うことができる。 ・ スポーツ科学の専門家としての能力を身につけ、その知識と技能を用いて社会に貢献できる。			
授業方法			
【面接授業】 全ての回を対面にて実施する。 ディスカッション等を行う双方向型の授業である。			
活用される授業方法			
スライド（パワーポイント等）の使用、 ディスカッション・ディベート			
成績評価方法・基準			
平常点（50%） 課題・レポート（50%）			
教科書・教材・参考文献 等			
【教科書・教材】 特に指定しない。講義時に資料を配布する。 【参考文献】			
質問への対応(オフィスアワー等)			
授業時間内に積極的に質問されたい。			
履修者へのコメント			
この分野に初めて触れる受講者も歓迎する。			
事前事後学習			
各回の講義資料を復習しておくこと。講義毎に提示する事前課題を実施すること（次回講義内容に関連した論文を読むなど1時間程度）。			

科目名(副題)		開講年次(セメスター)	単位	担当者名
スポーツ文化・マネジメント学実践法		1・2年次春学期 (1・3セメスター)	2	舟橋/芦塚
授業計画				
No.	項目	内容		
1	授業ガイダンス	授業内容やスケジュールを確認する		
2	ゲスト講師による特別講義(1)	スポーツ文化・マネジメント実践に関する特別講義(1)		
3	特別講義の振り返りと討論(1)	特別講義に対する質疑・討議・発表(1)		
4	ゲスト講師による特別講義(2)	スポーツ文化・マネジメント実践に関する特別講義(2)		
5	特別講義の振り返りと討論(2)	特別講義に対する質疑・討議・発表(2)		
6	ゲスト講師による特別講義(3)	スポーツ文化・マネジメント実践に関する特別講義(3)		
7	特別講義の振り返りと討論(3)	特別講義に対する質疑・討議・発表(3)		
8	ゲスト講師による特別講義(4)	スポーツ文化・マネジメント実践に関する特別講義(4)		
9	特別講義の振り返りと討論(4)	特別講義に対する質疑・討議・発表(4)		
10	ゲスト講師による特別講義(5)	スポーツ文化・マネジメント実践に関する特別講義(5)		
11	特別講義の振り返りと討論(5)	特別講義に対する質疑・討議・発表(5)		
12	ゲスト講師による特別講義(6)	スポーツ文化・マネジメント実践に関する特別講義(6)		
13	特別講義の振り返りと討論(6)	特別講義に対する質疑・討議・発表(6)		
14	ゲスト講師による特別講義(7)	スポーツ文化・マネジメント実践に関する特別講義(7)		
15	特別講義の振り返りと討論(7)	特別講義に対する質疑・討議・発表(7)		

科目名(副題)	開講年次(セメスター)	単位	担当者名
スポーツ文化・マネジメント学研究法 スポーツ文化・マネジメントに関わる研究方法の理解	1・2年次春学期 (1・3セメスター)	2	千葉他
科目ナンバリング			
-			
授業概要・目的			
この講義では、スポーツ文化・マネジメント学系教員が専門とする方法論や研究方法について学ぶ。この系の教員が所属する学問分野には、スポーツツーリズム、スポーツ史、スポーツ法、スポーツ社会学、スポーツ経営学、スポーツ経済学、スポーツ哲学などがある。各分野ごとに様々な方法論や研究方法があり、それぞれの方法について学ぶことを通して院生の修士論文作成に参考にすることを念頭に置いている。			
学修到達目標			
- 各専門分野の研究方法を理解し、説明することができる - 各専門分野の研究手法の中で自らの研究に生かせる技法を見だし、実践することができる			
授業方法			
院生は、担当教員によるオムニバス形式の授業を対面かオンライン形式で受ける。			
活用される授業方法			
板書、スライド（パワーポイント等）の使用、板書・スライド以外の視聴覚教材の使用、個人発表、ディスカッション・ディベート			
成績評価方法・基準			
課題・レポート（50%） 平常点（50%）			
教科書・教材・参考文献 等			
【教科書・教材】特に教科書の指定はない。授業中に教員から参考資料などの指示を受ける。 【参考文献】			
質問への対応(オフィスアワー等)			
随時、電子メールで質問を受けつける。			
履修者へのコメント			
スポーツ文化・マネジメント系の院生は必ずこの授業を履修すること。			

事前事後学習
予習としてシラバスを熟読する。担当教員が指示する資料などの読解や要約を予習学習と復習学習として課す（各学習1時間程度）。

科目名(副題)		開講年次(セメスター)	単位	担当者名
スポーツ文化・マネジメント学研究法 スポーツ文化・マネジメントに関わる研究方法の理解		1・2年次春学期 (1・3セメスター)	2	千葉他
授業計画				
No.	項目	内容		
1	オリエンテーション・スポーツツーリズムの研究 方法1	授業の概要、授業計画、評価方法についての説明、スポーツツーリズムの研究方法を 学ぶ		
2	スポーツツーリズムの研究 方法2	スポーツツーリズムの研究方法を学ぶ		
3	スポーツ史の研究 方法1	オリンピックの視点から学ぶ		
4	スポーツ史の研究 方法2	ジェンダーの視点から学ぶ		
5	スポーツ史の研究 方法3	アジアと政治の視点から学ぶ		
6	スポーツ法学の研究 方法1	スポーツ法学の研究方法を学ぶ		
7	スポーツ法学の研究 方法2	スポーツ法学の研究方法を学ぶ		
8	スポーツ社会学の研究 方法1	スポーツ社会学の研究方法を学ぶ		
9	スポーツ社会学の研究 方法2	スポーツ社会学の研究方法を学ぶ		
10	スポーツ社会学の研究 方法3	スポーツ社会学の研究方法を学ぶ		
11	スポーツ哲学の研究 方法1	スポーツ哲学の文献研究の方法を学ぶ		
12	スポーツ哲学の研究 方法2	スポーツ哲学の文献研究の方法を学ぶ		
13	スポーツ経済学の研究 方法1	スポーツ経済学の研究方法を学ぶ		
14	スポーツ経済学の研究 方法2	スポーツ経済学の研究方法を学ぶ		
15	スポーツ経営学の研究 方法	スポーツ経営学の研究方法を学ぶ		

科目名(副題)	開講年次(セメスター)	単位	担当者名
スポーツ文化・マネジメント研究A スポーツ哲学とスポーツ史の探求	1・2年次春学期 (1・3セメスター)	2	千葉/來田
科目ナンバリング			
-			
授業概要・目的			
本講義では、スポーツ哲学とスポーツ史の課題や研究方法などについて学ぶ。15回の講義の8回目までは、スポーツ哲学やスポーツ社会学の最新の方法論や研究事例について学ぶ。本講義では、関連する文献の購読を行う。授業の後半の7回は、スポーツ史の先行研究や調査方法などについて理解を深める。			
学修到達目標			
・ スポーツ哲学とスポーツ社会学の研究方法と研究について理解を深める ・ 自らの研究の認識論・方法論・理論を明確にすることを目指す。 ・ 課題の図書や論文を要約し、わかりやすい日本語で発表ができる。 ・ 近現代のスポーツ文化の時代的・社会的背景を理解する。			
授業方法			
本講義では、面接授業(オンラインでの授業実施を含む)を通して、関連する文献の購読を行う。二名の教員がオムニバスでこの授業担当を行う。課題の内容などは授業時間内に指示する。関連する文献などを紹介する。社会人で授業時間に授業が受けられない場合には、別の課題を与える。			
活用される授業方法			
板書、スライド(パワーポイント等)の使用、板書・スライド以外の視聴覚教材の使用、個人発表、グループ発表、ディスカッション・ディベート			
成績評価方法・基準			
課題・レポート(100%)			
教科書・教材・参考文献 等			
【教科書・教材】 課題図書は以下の文献とする。その他の書籍は授業で指示する。事前に担当部分をMaNaBoにファイルでアップロードする。 【参考文献】 社会科学の考え方 スポーツ社会学事典			
質問への対応(オフィスアワー等)			
随時、電子メールで質問を受け付ける			
履修者へのコメント			
スポーツ哲学とスポーツ史研究の事例や方法などについて学ぶことができます。是非履修してください。			

事前事後学習

課題図書と先行研究の要約を事前学習として課します。事前学習に1時間程度、事後学習に30分程度かかります。事後学習は、授業で紹介した内容に関して課題を課します。

科目名(副題)		開講年次(セメスター)	単位	担当者名
スポーツ文化・マネジメント研究A スポーツ哲学とスポーツ史の探求		1・2年次春学期 (1・3セメスター)	2	千葉/來田
授業計画				
No.	項目	内容		
1	オリエンテーション	授業の概要、授業計画、評価方法についての説明		
2	スポーツ哲学の事例研究1	女性競技者の性別問題について議論する		
3	スポーツ哲学の事例研究2	中学校体育授業の男女共習について議論する		
4	スポーツ哲学の事例研究3	留学生競技者の是非を議論する		
5	スポーツ哲学の事例研究4	ナイキと日清食品のテレビ広告の変遷を議論する		
6	スポーツ哲学の事例研究5	部活動の地域展開について議論する		
7	スポーツ哲学の事例研究6	大学近隣のNPO団体等の活動を観察し、関係者からの聞き取りを行う。		
8	スポーツ哲学の事例研究7	レポート課題の発表		
9	スポーツ史の事例研究1	「スポーツと政治」が交差する歴史①		
10	スポーツ史の事例研究2	「スポーツと政治」が交差する歴史②		
11	スポーツ史の事例研究3	「スポーツと都市」が交差する歴史		
12	スポーツ史の事例研究4	「オリンピックと教育」が交差する歴史		
13	スポーツ史の事例研究5	「スポーツと音楽・芸術」が交差する歴史		
14	スポーツ史の事例研究6	「アスリートの記憶」とスポーツ史		
15	近現代史研究の方法論に学ぶ	「マニュアルの社会史」と「オーラル・ヒストリー」研究から		

科目名(副題)	開講年次(セメスター)	単位	担当者名
スポーツ文化・マネジメント研究B	1・2年次秋学期 (2・4セメスター)	2	石堂/吉田
科目ナンバリング			
-			
授業概要・目的			
この講義では、スポーツ社会学とスポーツ法学を中心に学びます。スポーツ社会学では、スポーツ社会学の諸論文の読解を通じて、社会学的認識論・方法論ならびにスポーツの社会学的捉え方とはどのようなものかについて理解を深めていくことを目的とする。スポーツに関して生じた様々な問題を通して、社会人として必要な法律の基礎知識を学ぶとともに、スポーツが社会で果たす役割を考えます。スポーツを取り巻く様々な問題を通じて、社会とスポーツの関係を理解し、現在及び将来のスポーツのあり方について考えることができるようになることを目標とします。			
学修到達目標			
・ スポーツ社会学における認識論・方法論について理解し説明できるようになる。 ・ スポーツの社会的捉え方の各々について事例を挙げて説明できるようになる。 ・ スポーツに関して生じた様々な問題を通して、体育・スポーツ・健康などに関連してわれわれが直面する諸問題に学術的側面から多面的に取り組み、社会的な要請に応えるために自ら考え、表現できる。 ・ スポーツ法学並びに体育学を専門とする自立した研究者としての学識を有し、博士後期課程に進学して独創的な研究を行なうことができる。			
授業方法			
【面接授業】対面（奇数回）、オンライン（Zoomによる同期型、オンデマンド型）（偶数回）で実施する。対面授業もオンライン授業も、事前にMaNaBo（ないしそれ以前の対面授業）で配信（配布）した文献資料を用いる。対面授業、オンライン授業、いずれにおいても事前に文献資料を読解する。対面授業では担当者が事前に文献資料に関するレジュメを作成し、それを基に発表する。その上で意見交換を行う。オンライン授業では文献資料のレジュメを作成することに加え課題に取り組み、終了後にMaNaBoで提出する。なお、授業の詳細について最初の授業でガイダンスを実施する。			
活用される授業方法			
スライド（パワーポイント等）の使用、 個人発表、 ディスカッション・ディベート			
成績評価方法・基準			
課題・レポート（50%） 平常点（50%）			
教科書・教材・参考文献 等			
【教科書・教材】 スポーツ法へのファーストステップ(法律文化社) 【参考文献】 標準テキスト スポーツ法学			
質問への対応(オフィスアワー等)			
授業終了後に教室で質問を受け付ける 随時、電子メールで質問を受け付ける			
履修者へのコメント			
履修者には、報告課題が割り振られます。各自に割り当てられた課題に留まらず、毎時のテーマに関連した資料などを読み、問題意識をもって授業にのぞむこと。			
事前事後学習			
講義開始前には必ず資料に目を通し(1時間)、講義終了後には、問題点を整理し、問題解決のため関連論文、文献を精読する(1時間)。			

科目名(副題)		開講年次(セメスター)	単位	担当者名
スポーツ文化・マネジメント研究B		1・2年次秋学期 (2・4セメスター)	2	石堂/吉田
授業計画				
No.	項目	内容		
1	1. ガイダンス	授業の概要と進め方		
2	スポーツと社会学的認識論・方法論	規範的パラダイムと解釈的パラダイム		
3	スポーツの社会学的捉え方(1)	構造機能主義		
4	スポーツの社会学的捉え方(2)	シンボリック相互作用論		
5	スポーツの社会学的捉え方(3)	現象学的社会学、エスノメソドロジー		
6	スポーツの社会学的捉え方(4)	カルチュラルスタディーズ		
7	スポーツの社会学的捉え方(5)	社会構築主義		
8	スポーツ法とは何か	スポーツ法の全体像について解説・議論する		
9	スポーツにおける紛争解決	スポーツ紛争がどのように扱われているのか検証する。		
10	スポーツと人権	スポーツにおいて人権がどのように関わっているのか検討する		
11	スポーツと労働法	スポーツ選手の労働法上の地位について検討する		
12	スポーツとサステナビリティ	環境問題も含めて、スポーツのサステナビリティについて展望する		
13	スポーツ団体と法	ガバナンスを含めて、スポーツ団体の法的性格について検討する		
14	スポーツとドーピング	ドーピング違反事件について議論する		
15	まとめ	最終討議		

科目名(副題)	開講年次(セメスター)	単位	担当者名
スポーツ文化・マネジメント研究C	1・2年次春学期 (1・3セメスター)	2	伊藤/塚本
科目ナンバリング			
-			
授業概要・目的			
スポーツ文化・マネジメント研究は、スポーツ文化・マネジメント系専任教員がそれぞれの専門とする研究領域から今日的トピックや課題を提示し、その理論的背景や研究方法等について詳細な検討を行うことを目的としています。本講（スポーツ文化・マネジメント研究C）においては、マネジメント研究の側面について焦点を当てます。具体的には、社会心理学的な課題やアプローチを軸に伊藤が、経営学的な課題やアプローチを軸に塚本が前後半に分かれて担当します。なお、取り上げるトピックや課題等については、受講生の研究関心領域等を踏まえて調整することもあります。			
学修到達目標			
- スポーツのマネジメント研究の側面における今日的課題や研究動向、研究アプローチについて理解し説明できるようになる。 - 研究アプローチや方法の妥当性や信頼性等について視野を広め、自らの研究活動において実践・活用できるようになる。			
授業方法			
基本的に講義形式での授業形態をとりますが、部分的に演習的要素を取り入れる可能性もあります。また、対面での授業形態を想定していますが、状況によってはオンラインでの授業方式を採用することもあります。そのような場合には、改めて受講者に実施の詳細について相談を行う予定です。			
活用される授業方法			
スライド（パワーポイント等）の使用、 個人発表、 ディスカッション・ディベート			
成績評価方法・基準			
課題・レポート（60%） 授業討論等への参加（40%）			
教科書・教材・参考文献 等			
【教科書・教材】 【教科書】 特定の教科書は指定しません。 【参考文献】 取り扱うトピック等に応じて授業内で適宜紹介します。 【参考文献】			
質問への対応(オフィスアワー等)			
基本的に授業時やその前後にて対応します。またメール等で問い合わせも随時受け付けます。			
履修者へのコメント			
幅広いトピックを紹介しマネジメント研究のアプローチについて理解を深めます。課題や討議への積極的な参加を期待します。			
事前事後学習			
効果的な学修には、授業時はもちろんですが、事前学習（準備）や事後学習（振り返り）が重要になります。各回で学習内容の幅や深みは少しずつ変化しますが、それぞれ1.5時間程度の時間をとることを目安として下さい。その他不明な点等あれば教員の指示等に当たって下さい。			

科目名(副題)		開講年次(セメスター)	単位	担当者名
スポーツ文化・マネジメント研究C		1・2年次春学期 (1・3セメスター)	2	伊藤/塚本
授業計画				
No.	項目	内容		
1	ガイダンス 伊藤	授業内容とスケジュール等の確認、内容調整等		
2	スポーツのマネジメント研究(1) 伊藤	スポーツにおける社会心理学的課題と研究アプローチ(1)		
3	スポーツのマネジメント研究(2) 伊藤	スポーツにおける社会心理学的課題と研究アプローチ(2)		
4	スポーツのマネジメント研究(3) 伊藤	スポーツにおける社会心理学的課題と研究アプローチ(3)		
5	スポーツのマネジメント研究(4) 伊藤	スポーツにおける社会心理学的課題と研究アプローチ(4)		
6	スポーツのマネジメント研究(5) 伊藤	スポーツにおける社会心理学的課題と研究アプローチ(5)		
7	スポーツのマネジメント研究(6) 伊藤	スポーツにおける社会心理学的課題と研究アプローチ(6)		
8	スポーツのマネジメント研究(7) 伊藤	スポーツにおける社会心理学的課題と研究アプローチ(7)		
9	スポーツのマネジメント研究(8) 塚本	スポーツにおける経営学的課題と研究アプローチ(1)		
10	スポーツのマネジメント研究(9) 塚本	スポーツにおける経営学的課題と研究アプローチ(2)		
11	スポーツのマネジメント研究(10) 塚本	スポーツにおける経営学的課題と研究アプローチ(3)		
12	スポーツのマネジメント研究(11) 塚本	スポーツにおける経営学的課題と研究アプローチ(4)		
13	スポーツのマネジメント研究(12) 塚本	スポーツにおける経営学的課題と研究アプローチ(5)		
14	スポーツのマネジメント研究(13) 塚本	スポーツにおける経営学的課題と研究アプローチ(6)		
15	スポーツのマネジメント研究(14) 塚本	スポーツにおける経営学的課題と研究アプローチ(7)		

科目名(副題)	開講年次(セメスター)	単位	担当者名
スポーツ文化・マネジメント研究D スポーツ経済学／スポーツマーケティング	1・2年次秋学期 (2・4セメスター)	2	舟橋/芦塚
科目ナンバリング			
-			
授業概要・目的			
本講義は、「スポーツ経済学」と「スポーツマーケティング」を学修するように設計されている。前半の「スポーツ経済学」では、「経済学」という分析ツールを用いてスポーツ産業における諸問題を客観的に捉える方法を学ぶ。具体的には、参加型・観戦型スポーツ市場における消費者や企業の行動分析、政府によるスポーツ公共投資（スタジアム整備、スポーツイベント開催など）のインパクト評価といったトピックを扱う。後半の「スポーツマーケティング」では、企業やブランド、スポーツ組織が取り組む「スポーツ」を活用した課題解決のための「マーケティング」実践について、効果と限界、今後の展望について学ぶ。さらにスポーツSDGsに焦点を当て、スポーツを活用した社会課題の解決について学ぶ。履修生が関心を持ったスポーツSDGsの取組み事例についての研究発表を行い、その事例発表を題材にしてクラスで議論する。			
学修到達目標			
- スポーツ経済学やスポーツマーケティングの基礎的な用語や理論を理解する - 学修した内容を、自らの研究活動において実践・活用できるようになる - スポーツ科学全般にわたる広く深い学識を有し、体育・スポーツ・健康などに関連してわれわれが直面する諸問題に学術的側面から多角的視点で取り組み、社会的な要請に応えるために自ら考え、表現できる。 - スポーツ科学を専門とする自立した研究者としての学識を有し、博士後期課程に進学して独創的な研究を行うことができる。 - スポーツ科学の専門家としての能力を身につけ、その知識と技能を用いて社会に貢献できる。			
授業方法			
【面接授業】 全ての回を対面にて実施する			
活用される授業方法			
スライド（パワーポイント等）の使用、 個人発表、 ディスカッション・ディベート			
成績評価方法・基準			
課題・レポート（50%） 平常点（50%）			
教科書・教材・参考文献 等			
【教科書・教材】 特に指定しない。講義時に資料を配布する。 【参考文献】			
質問への対応(オフィスアワー等)			
授業時間内に積極的に質問されたい。			
履修者へのコメント			
この分野に初めて触れる受講者も歓迎する。			

事前事後学習

各回の講義資料を復習しておくこと。講義毎に提示する事前課題を実施すること（次回講義内容に関連した論文を読むなど1時間程度）。

科目名(副題)		開講年次(セメスター)	単位	担当者名
スポーツ文化・マネジメント研究D スポーツ経済学／スポーツマーケティング		1・2年次秋学期 (2・4セメスター)	2	舟橋/芦塚
授業計画				
No.	項目	内容		
1	授業ガイダンス	授業内容やスケジュールを確認する		
2	スポーツ経済学（１）	スポーツ産業の経済学的特殊性		
3	スポーツ経済学（２）	リーグの競争バランス分析		
4	スポーツ経済学（３）	スポーツ観戦需要：結果の不確実性仮説		
5	スポーツ経済学（４）	スポーツの経済効果：産業連関分析編		
6	スポーツ経済学（５）	スポーツの経済効果：回帰分析編		
7	スポーツ経済学（６）	スポーツの非市場価値		
8	スポーツ経済学（７）	履修生によるスポーツ経済学研究の発表		
9	スポーツマーケティング（１）	スポーツマーケティングとはなにか		
10	スポーツマーケティング（２）	スポーツを活用した課題解決のマーケティング実践について学ぶ：「ホスピタリティ」と「ショーケーシング」		
11	スポーツマーケティング（３）	課題解決のスポーツマーケティングについて、その可能性を展望する：SDGsとスポーツSDGsについて		
12	スポーツSDGs（１）	スポーツSDGsの実践の現状について学ぶ		
13	スポーツSDGs（２）	履修生による事例研究の中間発表およびディスカッション		
14	スポーツSDGs（３）	履修生による事例研究の最終発表		
15	スポーツSDGsの展望と全体総括	発表についてのフィードバックおよびコース全体の総括		